

多数傷病者対応訓練研修に参加して

HCU看護師・DMAT 小川 友輔

令和4年10月27日、広島県消防学校において救急救命士教育・リーダーシップコースにおける多数傷病者対応訓練研修にDMATチームとして参加してきました。今回の研修は多数傷病者対応における消防機関と医療チーム(DMAT)との連携活動・情報共有能力の向上を図るという目的で実施されました。

訓練概要としては救命士教育入校中の学生(今後災害現場で指揮を執る救命士)が主体となり、救急指揮所、救護所及び消防本部(指令室)の運営を実働訓練を通し運営し、活動中に得た情報を現場指揮本部及び医療機関(DMAT)と共有し活動を進めていくものでありました。

災害想定としてバスが崖下へ転落し、複数の傷病者がいるという設定のもとコントローラー、消防学校教官、学生、DMAT総勢約50名で本部設営から傷病者をトリアージ、救護所にて処置・安定化、医療機関への搬送とミッションをこなしていくものでありました。

DMATは福山市民病院、東広島医療センターの2チームの参加であり先着隊、後着隊と別れ消防隊の指示のもと救護所内での活動を訓練①②と同シナリオを2回実施しました。

訓練①終了後には各ブースごとに振り返りを行い自身が不足したこと、次節に活かすことをディスカッションし改善策を導き出しました。またDMATの中でも訓練前にグリーフィングし共通した認識で救護所が運営できるように訓練に臨みました。その結果1回目の訓練より2回目の訓練の方が達成感に満ち溢れることができ、非常に充実した研修時間を過ごすことができました。

今回の研修を通し感じたことは今回の研修目的でもあるように沢山の情報が錯乱している中で消防機関、DMATで情報をいかに共有するかということで



す。情報共有を行うことで迅速に傷病者のトリアージの実施、医療処置を必要としている傷病者に迅速に対応することができます。さらには医療機関への搬送順位の選定、現場から傷病者を医療機関へ搬送をするという一連の流れがスムーズに成されます。その情報を取りまとめるには各ブースのリーダー、メンバーがいかに情報発信をし、消防機関とDMATが連携して情報共有し共通認識を持つことです。またそうすることで災害現場への迅速・的確な医療資源の投入ができ、傷病者対応に至っても効率的運用により多くの救命効果が生まれ、一人でも多くの命を救うことに最終的には繋がってくるのではないかと本研修を通して感じました。

災害発生時には今回の研修の反省が活かされるように医師やコメディカルの方々とコミュニケーションを常日頃から取り「情報共有」を意識しながら業務を行っていきたいと思います。

